



令和6年1月16日

## 公立学校施設における木材利用状況調査の結果をお知らせします

文部科学省では、公立学校施設における木材の利用状況について調査を実施しています。この度、令和4年度における調査結果を取りまとめましたので公表します。

## 1. 調査内容

- 調査対象：全国の公立学校施設（幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校）
- 調査項目：（1）木造施設の整備状況及び非木造施設における内装木質化の状況  
（2）学校施設の木材使用量

## 2. 調査結果の概要（別紙1）

- 令和4年度に新しく建築された全ての学校施設 676 棟のうち、477 棟（70.6%）が木材を使用。
- 令和4年度に整備された学校施設では、29,815 m<sup>3</sup>の木材を使用。うち、10,263 m<sup>3</sup>（34.4%）が木造施設で、19,552 m<sup>3</sup>（65.6%）が非木造施設の内装木質化等において使用された。

## 3. 文部科学省における木材利用推進の取組（別紙2）

- 本調査結果を受けて、各地方公共団体に対して公立学校施設における木材利用の促進に関する通知を发出。
- 令和4年度より学校施設の内装木質化を標準化するとともに、引き続き木造校舎の整備に対する国庫補助を実施。
- 関係省庁と連携を図りながら、講習会等様々な機会をとらえて木材を活用した学校施設づくりを普及・啓発。
- 令和4年度に建築された木造施設において木造を実現するために行った工夫についてのアンケート結果を紹介。

## 4. ホームページへの掲載について

調査結果については、文部科学省のホームページ「学校施設における木材利用」に掲載しています。

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyosei/mokuzai/1284978.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/mokuzai/1284978.htm)

## &lt;担当&gt;

大臣官房文教施設企画・防災部施設助成課

課長補佐 野口 公伸 技術係長 林 政昭

電話：03-5253-4111（代表）（内線 2078）

03-6734-2078（直通）

# 公立学校施設における木材利用状況に関する調査結果（概要）

## 〔調査対象〕

公立の幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校

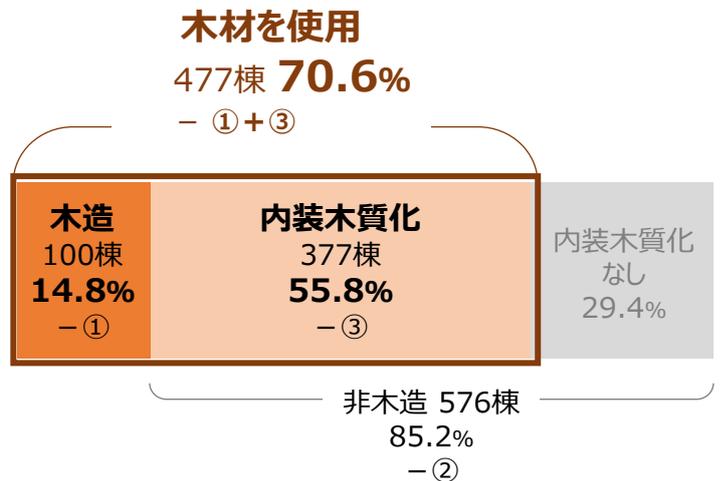
## 〔用語の定義〕



## 1. 令和4年度に新しく建築された学校施設の状況

令和4年度に新しく建築された全ての学校施設**676棟のうち、477棟（70.6%）**が木材を使用。

新しく建築された学校施設			
木造	100棟	14.8%	-①
非木造	576棟	85.2%	-②
うち内装木質化	377棟	55.8%	-③
木材を使用	477棟	70.6%	①+③
全事業	676棟	100.0%	



## 2. 令和4年度に整備された学校施設の木材使用量

令和4年度に新しく建築された学校施設及び改修を行った学校施設では、**29,815m<sup>3</sup>**の木材を使用。うち、**10,263m<sup>3</sup>（34.4%）**が**木造施設**で、**19,552m<sup>3</sup>（65.6%）**が**非木造施設の内装木質化等**において使用された。

	木材使用量	うち国産材使用量	
		国産材	割合
木造	10,263m <sup>3</sup>	8,131m <sup>3</sup>	79.2%
非木造	19,552m <sup>3</sup>	8,923m <sup>3</sup>	45.6%
合計	29,815m <sup>3</sup>	17,054m <sup>3</sup>	57.2%



### 3. 木造及び内装木質化された学校施設の事例

#### 木造の学校施設

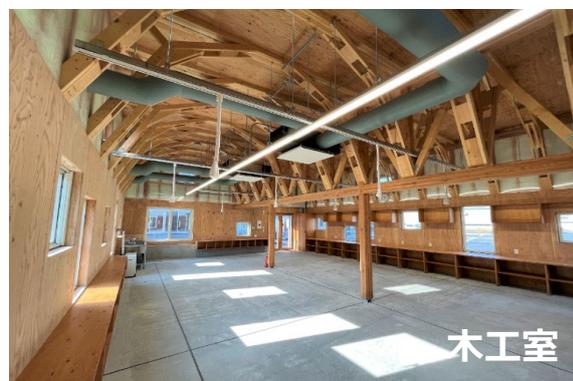
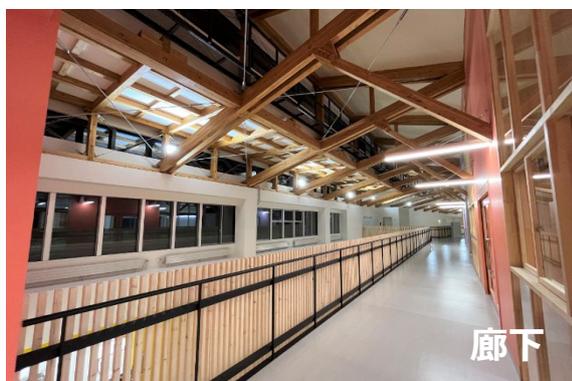
##### 北海道枝幸町立 枝幸町認定こども園

・町、道産トドマツを建築用木材（製材、CLT、集成材）に利用し、木の質感を表すことで、子どもたちの生活空間に相応しいやわらかな園舎を実現した。



##### 北海道安平町立 早来学園

・室内に木材や配管等を露出させ、子どもたちに建物の構造に興味を持ってもらえるような設計とした。



##### 青森県十和田市立 大深内小・中学校

・設計コンセプトを「家庭の延長にある学校」とし、可能な限り地場産材を使用し、児童生徒が木材の香りや肌触りを感じられる空間とした。



##### 岩手県立 釜石祥雲支援学校

・梁や柱に県産材を利用するとともに、木材フレームを露出することにより、柔らかく温かみのある木のぬくもりを感じる環境を創出した。



## 山形県立

### 米沢養護学校西置賜校

にし おきたま

- ・L型に長く伸びた乗降スペースと正面の門型フレームデザインで、生徒をやさしく迎え入れるファサードとした。
- ・深い軒を設けることで、雨や日射しから保護し、永く親しまれる木造校舎とした。



外観



ホール

## 京都府京丹波町立

### たんばこども園

- ・構造材や内装材、家具など、すべての部材に京丹波町産の木材を使用。
- ・内装においては、木材を活かし、木のぬくもり、京丹波の自然の恵みを身近に感じることができる。



外観



エントランス（玄関ホール）

## 岡山県新見市立

### 哲多認定こども園

- ・木の温もりを感じられるよう、木造で瓦ぶきの園舎とした。
- ・遊戯室ステージ床材には東京オリンピック選手村で使用された県産材を再利用。

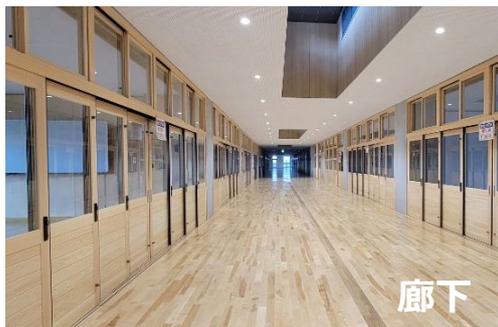


外観



遊戯室

## 内装木質化された学校施設



廊下



廊下



ステップアトリウム

あけのこよ  
茨城県筑西市立明野五葉学園  
(鉄筋コンクリート造/地上3階)

茨城県つくば市立研究学園小学校  
(鉄筋コンクリート造/地上3階)

東京都江東区第二大島中学校  
(鉄筋コンクリート造/地上4階)



石川県金沢市立朝霧台小学校  
(鉄筋コンクリート造一部鉄骨造/地上3階)

広島県福山市立戸手小学校<sup>とて</sup>  
(鉄筋コンクリート造/地上4階)

宮崎県木城町立みどりの杜木城学園<sup>もりきじょう</sup>  
(鉄筋コンクリート造/地上3階)

**【参考1】令和4年度に新しく建築された木造施設の整備状況及び非木造施設の内装木質化の状況（学校種別）**

(単位：棟)

学校種別	新しく建築された学校施設	うち木造施設		うち非木造施設		
		うち木造施設	木造施設数/全施設数	うち非木造施設	うち内装木質化した施設数	内装木質化数/全施設数
幼稚園	11	4	36.4%	7	7	100%
小学校	318	32	10.1%	286	187	65.4%
中学校	173	20	11.6%	153	98	64.1%
義務教育学校	52	9	17.3%	43	28	65.1%
高等学校	77	23	29.9%	54	35	64.8%
中等教育学校	0	0	-	0	0	-
特別支援学校	45	12	26.7%	33	22	66.7%
計	676	100	14.8%	576	377	65.5%

**【参考2】令和4年度に新しく建築された木造施設の整備状況及び非木造施設の内装木質化の状況（建物用途別）**

(単位：棟)

建物用途	新しく建築された学校施設	木造施設	非木造施設	
			内装木質化あり	内装木質化なし
校舎・園舎	319	28	252	39
屋内運動場	74	7	62	5
武道場	11	2	9	0
寄宿舎	21	13	6	2
その他 <sup>※1</sup>	251	50	48	153
計	676	100	377	199

※1 その他：倉庫、屋外便所、部室、プール付属室等

### [参考3] 全木造施設数（令和4年5月1日時点）「公立学校施設実態調査」より

- ・ 全 施 設 数<sup>※2</sup> : 363,860棟
- ・ うち木造施設数 : 31,365棟（8.6%）

※2 公立の幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校

### [参考4] 令和4年度に整備された学校施設の木材使用量にかかる炭素貯蔵量（CO<sub>2</sub>換算量）

木材使用量 29,815 m<sup>3</sup>



炭素貯蔵量<sup>※3</sup> 約1.8万 t-CO<sub>2</sub>

約1万人が  
1年間に排出する  
炭素量を貯蔵

1人当たり  
1.8t-CO<sub>2</sub><sup>※4</sup>

※3 スギ材として試算

〔算出根拠〕

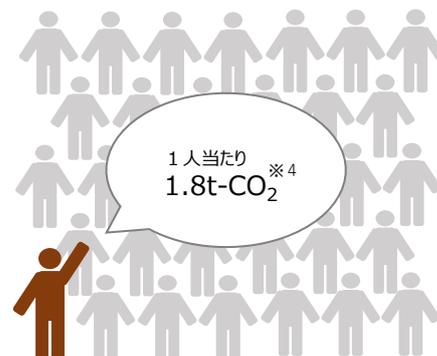
建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン

林野庁HP <https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/mieruka.html>

※4 〔算出根拠〕

日本の温室効果ガス排出量データ（1990～2021年度）確報値

国立研究開発法人 国立環境研究所HP <https://www.nies.go.jp/gio/aboutghg/index.html#e>



## 文部科学省における木材利用推進の取組

### 学校施設への木材利用の主な効果と意義

#### ○学習環境の改善

- ・柔らかで温かみのある感触や優れた調湿効果による、豊かで快適な学習環境を形成。
- ・森林の保全、地域の産業や地球環境問題などについて学習する教材としての活用。

#### ○地場産業の活性化

- ・地域材や地場の職人の技術の活用による、地域経済の活性化や地場産業の振興。

#### ○地球環境の保全

- ・鉄やアルミニウム等に比べて、材料製造時に要するエネルギー量が少ない。
- ・炭素を貯蔵するため温暖化抑制に寄与。

#### ○地域の風土や文化への調和

- ・学校づくりを通じた、地域のコミュニティ形成や木の文化の継承の機会の提供。

### 文部科学省における木材利用推進の取組

#### (1) 主な取組

##### ア 木造校舎の整備や内装の木質化に対する国庫補助

「新增築事業」、「改築事業」、「大規模改造事業」等において、公立学校施設の木造化及び内装木質化の補助を行っている。

国庫負担率及び交付金の算定割合

- ・ 新增築… 1 / 2 (原則)
- ・ 改築、大規模改造等… 1 / 3 (原則)

- ① 脱炭素社会の実現に資するため、令和4年度より学校施設の内装木質化を標準化。
- ② 地域材を利用して木造施設を整備する場合、補助単価を5.0%加算。

##### イ 木の学校づくり先導事業の実施

学校設置者等が、建築基準法改正により規制緩和された木造3階建て等の大規模木造校舎や、平成26年度に改正された木造校舎の構造設計に関するJIS規格を活用した校舎、CLTを用いた木造校舎等を整備する先導的な取組(平成27年度～29年度において事業採択済み)に対して財政支援を実施。

【初年度】木造建築の専門家等を交え、基本計画策定のためのワークショップ等を実施

【2年目】初年度に実施したワークショップ等の結果を踏まえ、基本設計と実施設計を実施

【3年目】実施設計に基づき、木材を活用した学校施設を整備

##### ウ 木材を活用した学校施設に関する講習会の開催

学校施設における木材利用の普及・啓発のため、林野庁、国土交通省と連携し、施策の説明や具体的な整備事例を紹介する講習会を毎年度実施。

※令和5年度は、「江東区立有明西小学校」「江東区立第二大島中学校」「魚津市立星の杜小学校」の事例を紹介。

これまでの講習会における事例紹介の動画は文部科学省HPに掲載

([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shisetu/mokuzou/1407994\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/mokuzou/1407994_00001.htm))

## エ 学校施設へ木材を活用するための手引書及びパンフレットの作成・配布

- 学校施設への木材活用のための手引きとして「早わかり木の学校」を作成（平成 19 年度）。
- 地方公共団体向けに、木材活用事例集「こうやって作る木の学校」を林野庁と共同で作成（平成 22 年度）。
- 全国の木の学校の中から、近年作られた特色ある学校を紹介した「全国に広がる木の学校～木材利用の事例集～」を作成（平成 26 年度）。
- 木造 3 階建て校舎の整備にあたり、建築基準法改正の主なポイントをイラストや写真等を用いて紹介した「木の学校づくりー木造 3 階建て校舎の手引ー」を作成（平成 27 年度）。
- 学校施設における木材利用が一層促進されるよう、「木の学校づくりーその構想からメンテナンスまでー」を改訂（平成 30 年度）。
- 学校施設等の木材利用における CLT 等の新たな木質部材の利用促進の一つとして、CLT を活用した学校施設等の事例を取りまとめた「木の学校づくり 学校施設等の CLT 活用事例」を作成（令和元年度）。
- 施設整備による教育環境向上の効果について調査を行い、木質化による教育効果に関する事例を公開（令和 3 年度）。  
[https://www.mext.go.jp/content/20210930-mxt\\_sisetujo-1334433\\_003.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210930-mxt_sisetujo-1334433_003.pdf)
- エコスクールとして内装木質化を実施した学校を紹介したパンフレット「エコスクールー環境を考慮した学校施設の整備推進ー」を作成（令和 4 年度）。

## オ 木造校舎の構造設計標準（JIS A 3301）の改正

「木造校舎の構造設計標準の在り方に関する検討会」（座長：長澤悟 東洋大学名誉教授）における議論を踏まえ、木造の設計経験のない技術者でも比較的容易に木造校舎の計画・設計等が行えるよう、また、近年の学校施設に求められる機能や性能等が確保できるものとなるよう、JIS A 3301 を改正。

また、改正の考え方や実験データ、留意事項、具体的な設計例及び構造計算例等を取りまとめた技術資料を作成（平成 26 年度）。

## カ 木材利用促進に関する通知の発出

- 本調査結果を受けて、各地方公共団体に対して公立学校施設における木材利用の促進に関する事務連絡を送付（平成 30 年度、令和元年度、2 年度、3 年度、4 年度）。
- 「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」（令和 3 年 10 月 1 日施行）（旧名：「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」）に基づく「建築物における木材の利用の促進に関する基本方針」が改正されたため、各都道府県教育委員会等に対し、学校施設における木材利用の促進について要請・周知する通知を発出（令和 3 年度）。

## (2) 今後の取組

- ア 本調査結果を受けて、各地方公共団体に対して公立学校施設における木材利用の促進に関する通知を発出
- イ 引き続き木造校舎の整備や内装の木質化に対する国庫補助を実施
- ウ 関係省庁と連携を図りながら、講習会等様々な機会をとらえて木材を活用した学校施設づくりを普及・啓発

### 【参考】木造校舎の新增改築事業実施に関するアンケート結果

公立学校施設における木材利用状況（令和4年度）の調査に回答いただいた一部の事業を対象にアンケートを実施しました。木造校舎を整備する上で実施した工夫などを紹介しますので、計画の際の参考としてください。

【凡例】



#### 学校名称

設置者／●●●●  
用途／●●●●

【規模】  
階数／●●●●  
延床面積／●●●●㎡  
軒高／●●●●m  
最高高さ／●●●●m

#### 【敷地】

敷地条件／●●●●  
耐火要件／●●●●

#### 【構造】

構造／●●●●  
主な架構／●●●●

【㎡あたり建設単価】  
約●●●●万円／㎡

- 防・耐火要件緩和の工夫
- 木材調達工夫
- コスト抑制の工夫
- 工期短縮の工夫
- 教育効果・地域貢献の工夫

敷地の防火上の地域区分が「防火地域」「準防火地域」「22条区域」「なし」のいずれであるかについて

建物の耐火要件が「耐火建築物」「準耐火建築物」「その他」のいずれであるかについて

建物の構造が純粋な木造であるか、鉄筋コンクリート造等との混構造であるかなどについて

教室などの長スパンを飛ばすために使用した架構について

建設に要した事業費を延床面積で割り戻した単価

木造校舎を整備するために行った工夫について



#### えさし 枝幸町認定こども園

設置者／北海道枝幸町  
用途／園舎

【規模】  
階数／地上1階  
延床面積／1,352㎡  
軒高／3.3m  
最高高さ／7.4m

【敷地】  
敷地条件／22条区域  
耐火要件／準耐火建築物

【構造】  
構造／木造、一部CLT使用  
主な架構／CLTによる大型梁架構

【㎡あたり建設単価】  
約47万円／㎡

- 防・耐火要件緩和の工夫
  - ・ 外壁を耐火構造の準耐火建築物（口準耐1号建築物）とすることで、内装制限の基準を満たし、構造材の表しや内装木質化を可能とした。
  - ・ 小屋梁上にCLTを敷いたことにより、耐火性能が向上したことに加え、小屋裏の延焼防止効果も向上することができた。

- 木材調達の工夫
  - ・ 町の独自事業である「木材製材工場移転支援事業」を活用し、林産業者を誘致したことにより、一貫した生産供給機能（事業者）を町内に有することができた。
  - ・ 林業者、林産業者、実需者と町の4者間で「木材利用促進法」に基づく協定を締結したことにより、持続的かつ安定的に地域材の供給を受けられるための連携体制を構築することができた。

- コスト・工期抑制の工夫
  - ・ 木造建築及びCLTとの組み合わせによる在来軸組工法は、鉄筋コンクリート造、鉄骨造より建物重量が軽いため、布基礎等の簡便性の高い形式を採用できることに加え、工期も短縮されるため、コストが軽減できた。

- 教育効果・地域貢献の工夫
  - ・ 園舎は、環境負荷の低減に配慮した木造公共建築物のモデル的役割に加え、木の温もりや魅力を伝える保育の教材としての役割も担っていることから、園児及び保護者に対して日常生活、諸行事を通じて、木材利用についての理解を深めてもらうことからはじめ、最終的には地球温暖化防止対策等の環境教育までつなげる。



#### はやさた 早来学園

設置者／北海道安平町  
用途／校舎

【規模】  
階数／地上2階  
延床面積／7,088㎡  
軒高／14.2m  
最高高さ／15.6m

【敷地】  
敷地条件／22条区域  
耐火要件／準耐火建築物

【構造】  
構造／混構造（鉄筋コンクリート+木造）  
主な架構／構造用集成材

【㎡あたり建設単価】  
約44万円／㎡

- 防・耐火要件緩和の工夫
  - ・ 3棟に分棟し、1棟を耐火建築物とし、2,000㎡未満の木造部分を2棟とした。

- 木材調達の工夫
  - ・ 設計段階で木材業者へ木材需要量の情報共有を行った。

- コスト抑制の工夫
  - ・ 流通しているサイズの製材を多用した。
  - ・ 住宅用の金物を多用した。

- 工期短縮の工夫
  - ・ 一般に流通しているサイズの製材を使用することで調達時間を短縮した。

- 教育効果・地域貢献の工夫
  - ・ 梁等を隠さず見せることで子供たちに建築に興味を持ってもらうよう工夫した。



### おほさおない 大深内小・中学校

設置者/青森県十和田市  
用途/校舎

【規模】  
階数/地上2階  
延床面積/3,833㎡  
軒高/8.1m  
最高高さ/11.1m

【敷地】  
敷地条件/なし  
耐火要件/準耐火建築物

【構造】  
構造/木造、一部LVL使用  
主な架構/構造用集成材

【mあたり建設単価】  
約49万円/m

- 防・耐火要件緩和の工夫
  - ・ 3,000㎡以内ごとにRC造部分を設けて区画し、別棟とすることで、木造部分を45分準耐火建築物（イ準耐）とした。
- 木材調達工夫
  - ・ 設計段階で木材業者へ木材需要量の情報共有を行った。
- コスト抑制の工夫
  - ・ 流通しているサイズの製材を多用した。
  - ・ 住宅用の金物を多用した。
- 工期短縮の工夫
  - ・ 一般に流通しているサイズの製材を使用することで調達時間を短縮した。
- 教育効果・地域貢献の工夫
  - ・ 児童生徒が地場産の木材に触れることでの教育を行い、かつ香りや肌触りを感じられる空間として学習環境の向上を図っている。
  - ・ 講堂を地域住民へ休日開放するため、廊下の一部に木製の格子戸を設ける（消防と協議済）ことで、出入りやトイレ以外の校舎部分には立ち入りできないようにしつつ、木材利用の状態は感じられるようにしている。

### しやうらん 釜石祥雲支援学校

設置者/若手県  
用途/校舎

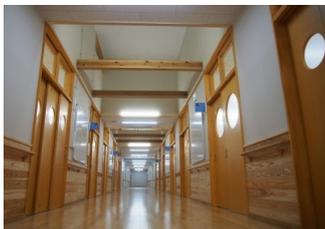
【規模】  
階数/地上2階  
延床面積/3,932㎡  
軒高/8.6m  
最高高さ/12.6m

【敷地】  
敷地条件/22条区域  
耐火要件/準耐火建築物

【構造】  
構造/木造、一部RC造  
主な架構/大断面集成材による木質二方向ラーメン工法

【mあたり建設単価】  
約49万円/m

- 防・耐火要件緩和の工夫
  - ・ 延床面積が3,932㎡となることから、耐火建築物が要求されるが、小中学部棟と高等部棟をつなぐ渡り廊下等をRC造とし、木造であるそれぞれの棟を3,000㎡以内にするこことで準耐火建築物とした。
- 教育効果・地域貢献の工夫
  - ・ 木質二方向ラーメン工法を採用したことにより、主要構造材の木材利用の観点から、県産木材利用の促進が図られた。



### にしおきたま 米沢養護学校西置賜校

設置者/山形県  
用途/校舎

【規模】  
階数/地上1階  
延床面積/2,199㎡  
軒高/5.4m  
最高高さ/6.2m

【敷地】  
敷地条件/22条区域  
耐火要件/その他の構築物

【構造】  
構造/木造  
主な架構/構造用集成材

【mあたり建設単価】  
約43万円/m

- 防・耐火要件緩和の工夫
  - ・ 学校の用途に供する床面積の合計が2,000㎡を超えると準耐火建築物とする必要があるが、3棟に分棟し、別棟とすることによりその他の建築物とした。
- 木材調達の工夫
  - ・ 設計段階で木材業者へ木材需要量の情報共有を行った。
- コスト抑制の工夫
  - ・ 流通しているサイズの製材を多用した。
- 工期短縮の工夫
  - ・ 一般に流通しているサイズの製材を使用することで調達時間を短縮した。

### えいめう 栄桜小中学校

設置者/京都府京都市  
用途/校舎、体育館

【規模】  
階数/地上3階  
延床面積/13,820㎡  
軒高/12.9m  
最高高さ/16.6m

【敷地】  
敷地条件/22条区域  
耐火要件/耐火建築物

【構造】  
構造/混構造（1,2階はRC造、3階教室は木造、多目的室は鉄骨造）  
主な架構/方杖および製材の重ね梁

【mあたり建設単価】  
約40万円/m

- 防・耐火要件緩和の工夫
  - ・ 耐火性能を満たすため、仕上げの自由度が高いメンブレン型を採用した。
- 木材調達の工夫
  - ・ 木材のみ分離発注。
  - ・ 設計段階で木材業者へ木材需要量の情報共有を行った。
  - ・ 木材コーディネーターなどの専門家も交えて円滑な調達に努めた。
- コスト抑制の工夫
  - ・ 流通しているサイズの製材を多用した。
- 工期短縮の工夫
  - ・ 分離発注とすることで工事契約後の木材調達に要する工期を短縮させた。
- 教育効果・地域貢献の工夫
  - ・ 児童生徒が長く滞在する普通教室に、自然素材の無垢木材を最大限使用し、木の温かみを感じながら活動できる「木育空間」とすることで、環境教育につながるよう配慮した。
  - ・ 分離発注した木材を全て京都市内産の木材とし、かつ京都市内の業者中心に製材及びブレイカットを行うことで、地域の林業やその関連産業の振興、森林の整備、木材製造過程の移動に要するCO2削減につながるよう配慮した。



### りょうめい 洛西陵明小中学校

設置者／京都府京都市  
用途／校舎、体育館

#### 【規模】

階数／地上3階  
延床面積／14,754㎡  
軒高／13.4m  
最高高さ／16m

#### 【敷地】

敷地条件／22条区域  
耐火要件／準耐火建築物

#### 【構造】

構造／混構造（校舎1階がRC造、2・3階が木造）  
主な架構／製材を3段階んだ組立梁

#### 【㎡あたり建設単価】

約41万円/㎡

#### ■防・耐火要件緩和の工夫

- ・3階建てかつ延床面積が3,000㎡を超えることから、耐火建築物が要求されるが、木造部分を3,000㎡以内ごとに面積区分することで、木造部分とRC造部分を防耐火構造上別棟とし、木造部分を準耐火構造（燃えしる設計）とした。
- ・区画部にはRC造による壁や随時閉鎖式特定防火設備等を採用した。

#### ■木材調達工夫

- ・木材のみ分離発注。
- ・設計段階で木材業者へ木材需要量の情報共有を行った。
- ・木材コーディネーターなどの専門家も交えて円滑な調達に努めた。

#### ■コスト抑制の工夫

- ・流通しているサイズの製材を多用した。

#### ■工期短縮の工夫

- ・分離発注とすることで工事契約後の木材調達に要する工期を短縮させた。

#### ■教育効果・地域貢献の工夫

- ・木の温もりを感じる校舎とするため、児童生徒の活動の中心となる普通教室エリア（校舎2・3階の一部）を木造としたほか、腰壁や床等の内装材についても積極的に木材を利用する計画とした。
- ・分離発注した木材を全て京都市内産の木材とし、かつ京都府内の業者中心に製材及びプレカットを行うことで、地域の林業やその関連産業の振興、森林の整備、木材製造過程の移動に要するCO2削減につながるよう配慮した。

### たんばこども園

設置者／京都府京丹波町  
用途／園舎

#### 【規模】

階数／地上2階  
延床面積／2,324㎡  
軒高／5.8m  
最高高さ／9m

#### 【敷地】

敷地条件／22条区域  
耐火要件／準耐火建築物

#### 【構造】

構造／木造  
主な架構／構造用集成材

#### ■防・耐火要件緩和の工夫

- ・用途に供する床面積の合計が2,000㎡を超えると準耐火建築物（45分もしくは60分）とする必要があるが、準耐火60分を採用し、防火区画面積1,000㎡により、施設設計の自由度を高め整備した。

#### ■木材調達の工夫

- ・木材のみ分離発注。
- ・設計段階で木材業者へ木材需要量の情報共有を行った。
- ・木材コーディネーターなどの専門家も交えて円滑な調達に努めた。
- ・プロポーザル事業者提案段階から木材業者を組み込ませて調達を行った。

#### ■工期短縮の工夫

- ・分離発注とすることで工事契約後の木材調達に要する工期を短縮させた。
- ・一般に流通しているサイズの製材を使用することで調達時間を短縮した。
- ・同時期に施工されていた、京丹波町役場新庁舎に使用される構造材と同サイズの寸法を採用し、納品の時期や数量等を相互調整した。

#### ■教育効果・地域貢献の工夫

- ・同時期に進めていた京丹波町新庁舎整備事業の木材調達において、町内産木材活用モデルの形成による町内林業事業者の森林資源価値向上のための森づくり意欲の拡大ならびに、森林林業分野の担い手の育成と技術継承を高めることを目的として、製材業者としてのノウハウを持つ、町内の3業者で構成される共同企業体と契約した。
- ・こども園整備事業においても同じく町内産木材を使用するうえで、この木材調達事業手法を踏襲し、新庁舎整備だけの一過性の事業で終わるのではなく継続した事業として町内の森林林業分野の担い手育成及び技術継承の発展につなげたいことから、共同企業体より木材調達を実施した。



### てつど 哲多認定こども園

設置者／岡山県新見市  
用途／園舎

#### 【規模】

階数／地上2階  
延床面積／872㎡  
軒高／7.5m  
最高高さ／7.8m

#### 【敷地】

敷地条件／なし  
耐火要件／その他の建築物

#### 【構造】

構造／木造  
主な架構／構造用集成材

#### 【㎡あたり建設単価】

約40万円/㎡

#### ■木材調達の工夫

- ・比較的入手しやすくポピュラーな樹種を採用した。

#### ■コスト抑制の工夫

- ・流通しているサイズの製材を多用した。

#### ■工期短縮の工夫

- ・一般に流通しているサイズの製材を使用することで調達時間を短縮した。

### 鹿児島南特別支援学校

設置者／鹿児島県  
用途／校舎

#### 【規模】

階数／地上2階  
延床面積／16,321.14㎡  
軒高／12.1m  
最高高さ／12.2m

#### 【敷地】

敷地条件／22条区域

#### 【構造】

構造／混構造（RC造、一部屋根のみ木造）

#### 【㎡あたり建設単価】

約39万円/㎡

#### ■防・耐火要件緩和の工夫

- ・小屋組のみを木造として、建物全体は耐火建築物とした。

#### ■教育効果・地域貢献の工夫

- ・特別支援学校として、児童生徒に優しい地域性豊かな温もりと安らぎのある空間を形成するため、県産材の持つテクスチャを活かし、内外装材・外構材に活用した。